

新・寺院

～仏教を感じる～

k04100 星尾 太一



仏教

唯一神をもたず、自分自身の心を清め高めることで自分が仏になれるという、他の宗教とは違う点を持ち、古くから自然に囲まれ、八百万の神がいた日本にはうまく定着した。

仏教の現状、問題点

現在日本における仏教は衰退の方向にある。これは昔のように疫病や天変地異など、人の手ではどうしようもなかった事が、科学や技術の進歩によって解決されはじめ、恐怖の念が薄らいだからである。事があるごとにお参りに行くなると人は滅多にいなくなってしまった。そのため現代の日本人には、あの世感や進行心が欠けている。

そして結果として仏教も慈悲の教えや、相手を思いやる心、生をもらって自分達が生かされているということ、回りの人や自然によって自分が形成されていることなど、仏教の持つ教養の部分までもが日本人に欠けてしまっている。

また寺院を守る側の僧達は今まで地域社会、コミュニティによって支えられてきたが、合理化が進んだ現在、その関わりは極端に減り、地域の人と僧とのかかわりの多くは、葬式の時だけになってしまっている。

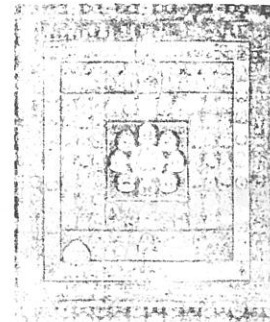
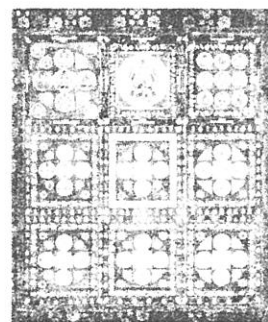
敷地 千葉県柏市布施 1738

敷地は千葉県と茨城県の間には流れる利根川の近くで、柏市にある布施という土地である。ここには紅龍山東海寺（布施弁天）が小さな山の上に象徴としてある。真言宗密教の寺院。

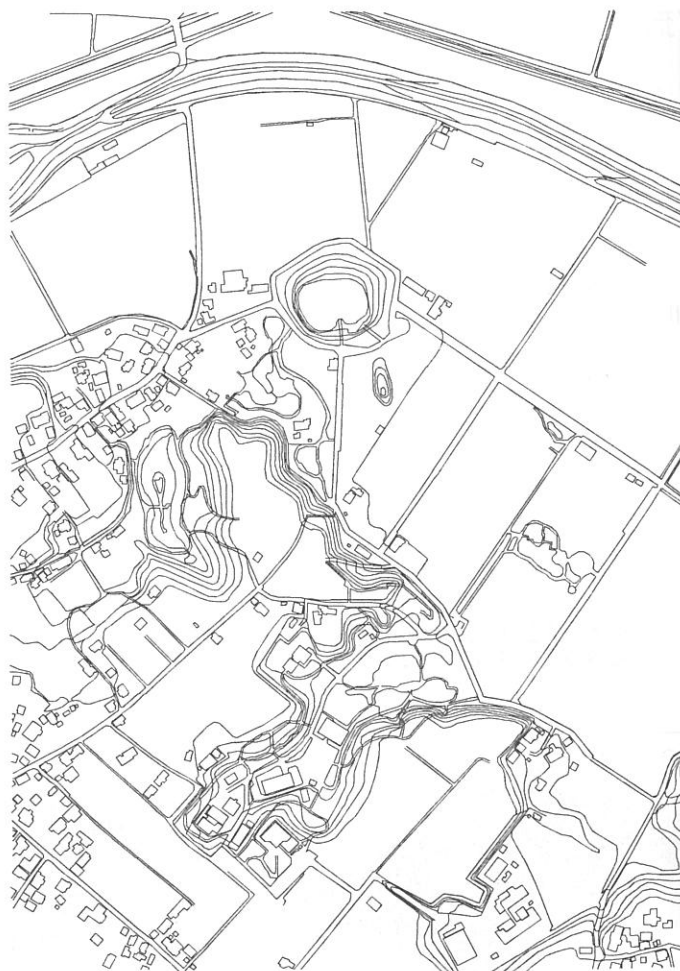
またこの寺院の回りには田や畑、森や堤防など古くからのこの土地の特徴ともなっていた要素が残っている。

市民農園では庭のない家に住む人たちが、市から小さな単位で土地を借り、簡単な家庭農園として利用している

真言宗密教



真言宗密教の寺院には両界曼陀羅の絵が掛けられている
両界曼陀羅とは仏教界を胎藏界と金剛界 つまり
理（形）と 知（働き）に分けて表現されたもので、
対になった絵のつながりから仏教界を感じ取ることが出来るしくみになっている



コンセプト

仏教の世界観を、空間の体験で感覚的に捉えさせる

現在の寺院は昔からの姿を保っているのに対し、その中身である仏教はそのありかたを変え、本来広めるべき テーマ『慈悲』を衰退、葬式仏教を強めるといった 違った姿でのこっているように思える。

仏教は経典や多数の仏、仏教界の構成や仕組みなどが複雑で一般の人にわかりにくく、感じにくい。

しかし大事なことは

相手を思いやること
命が命を育てる意味
可能性やエネルギー
自然の尊さ

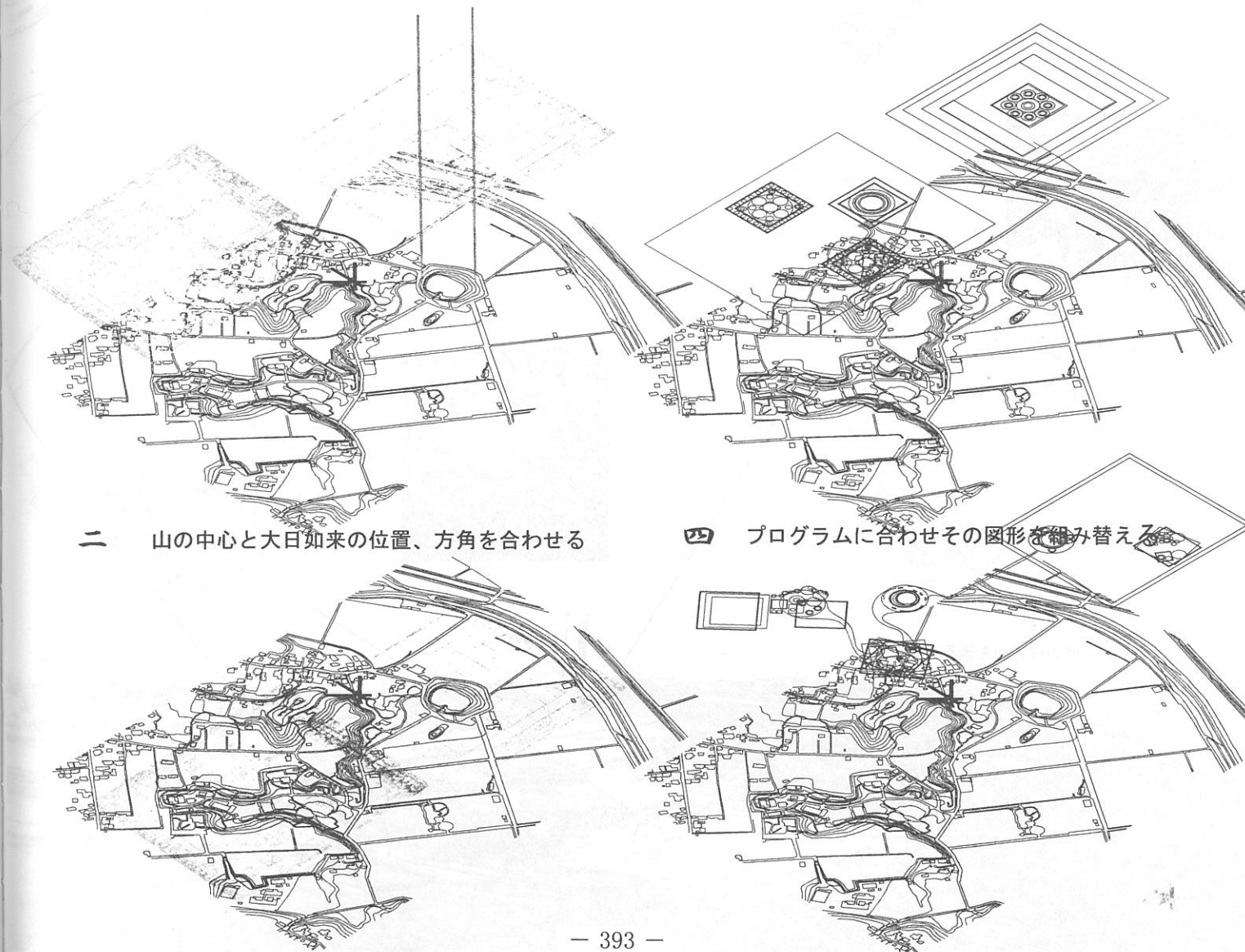
簡単なことのように見落としがちで内容であるように思う。

それらを、この寺院の体感を通して感じ取り、豊かな心を確認したり、成長させたりして欲しい

大地に埋め込まれた曼陀羅 ～ダイアグラム～

一 曼陀羅を山のスケールに合わせて拡大する。

三 描かれた仏の図形から主要なものを抜き出す

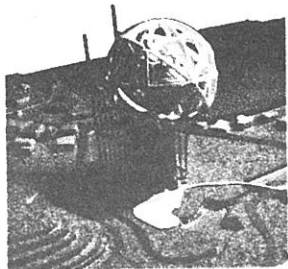
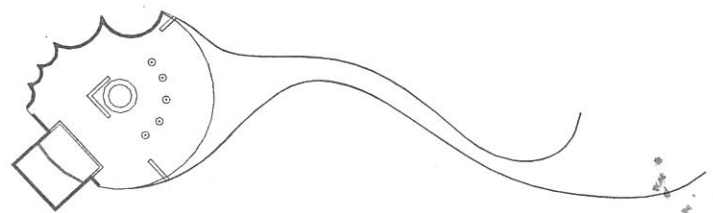


二 山の中心と大日如来の位置、方角を合わせる

四 プログラムに合わせその図形を組み合わせる

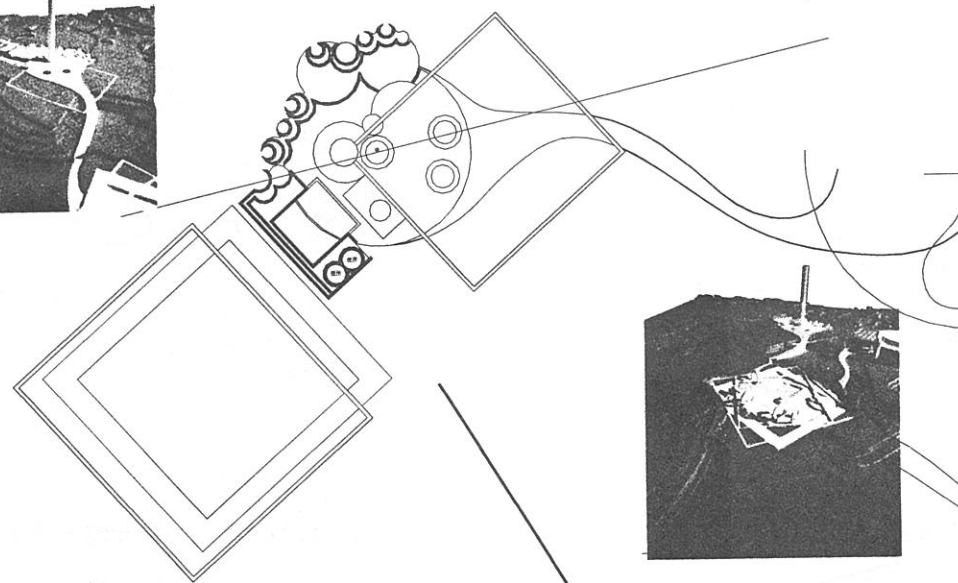
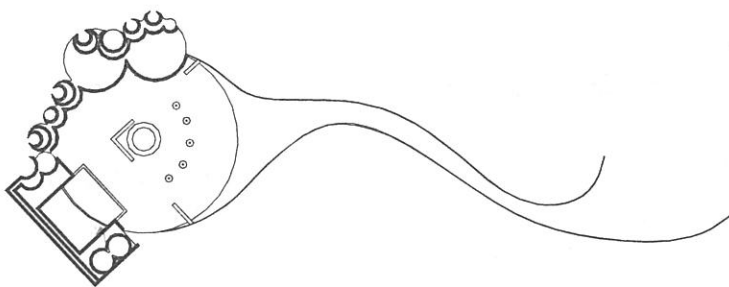
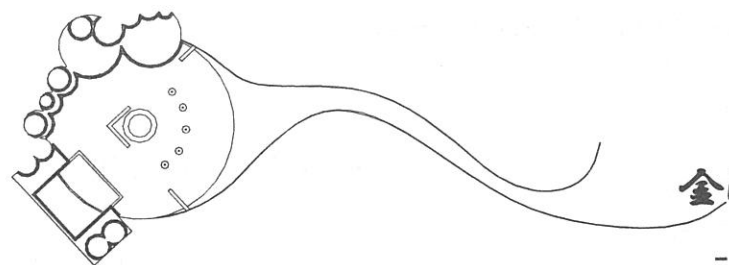
塔

この参道の最初の地点
仏教界での人間界の位置を感覚
としてつかむ

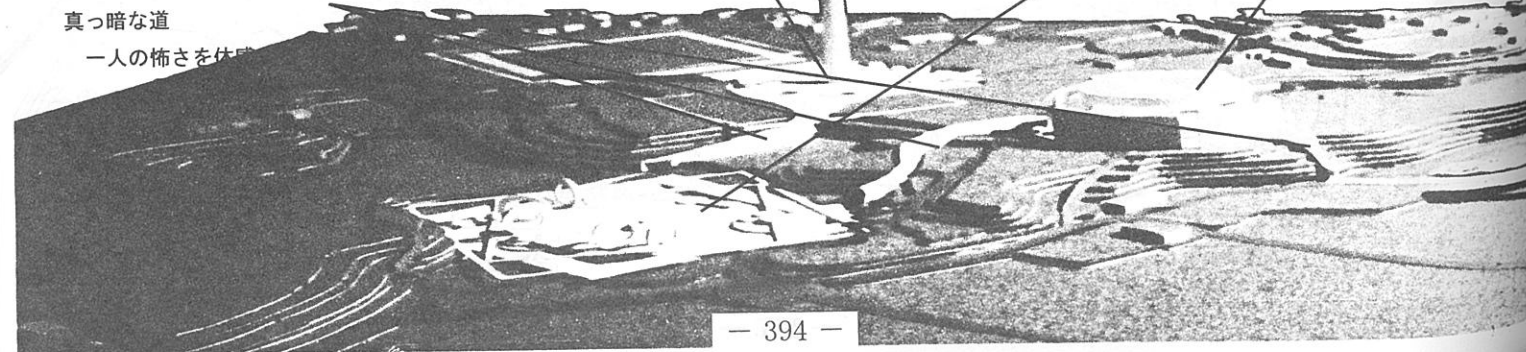


金剛界

ここで祭られているのは木
また回りも木で囲まれている

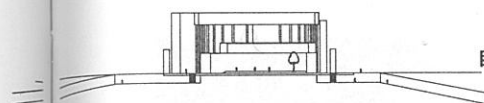
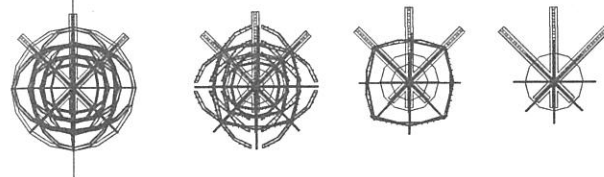
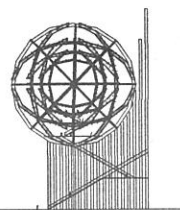


それぞれを繋ぐ参道は、前も後ろも見えない
真っ暗な道
一人の怖さを体験



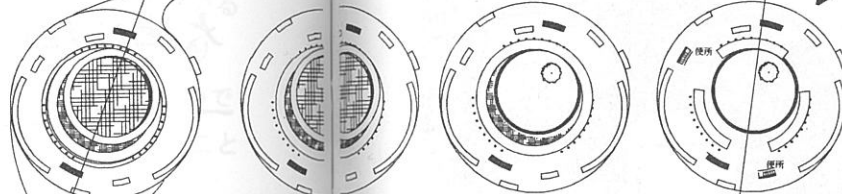
大日如来

曼陀羅に挟まれた仏像の位置
この参道の最終地点



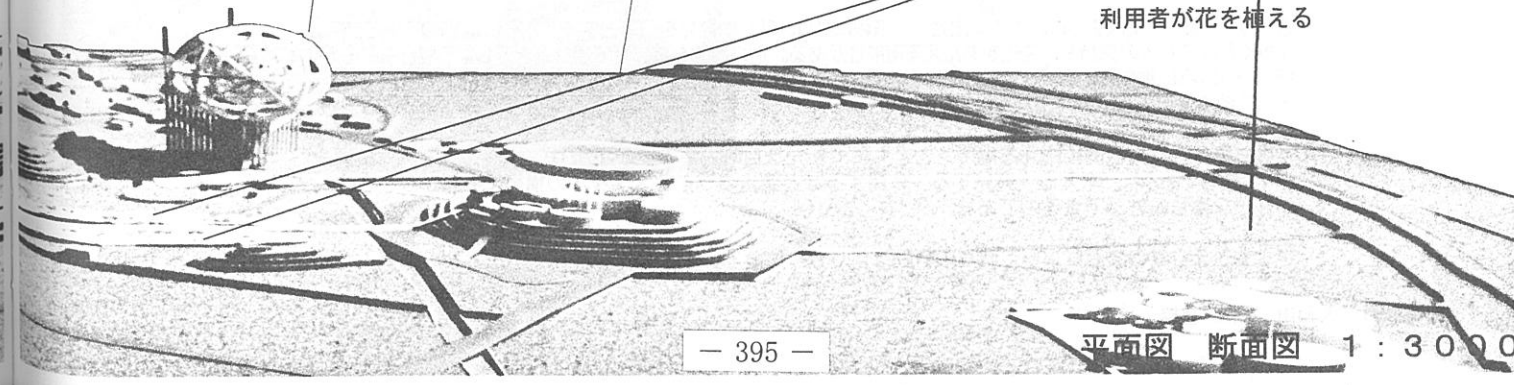
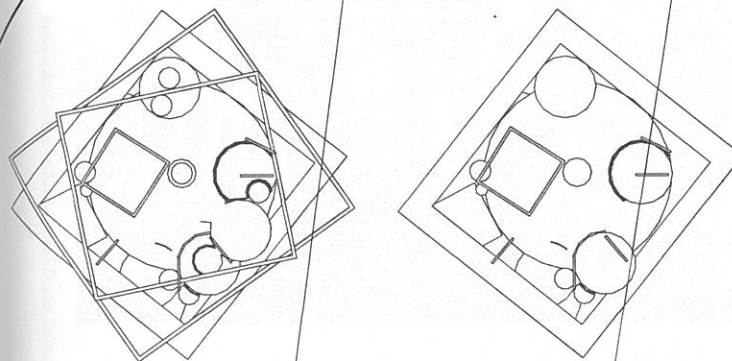
対になっている

自然=仏 を示す



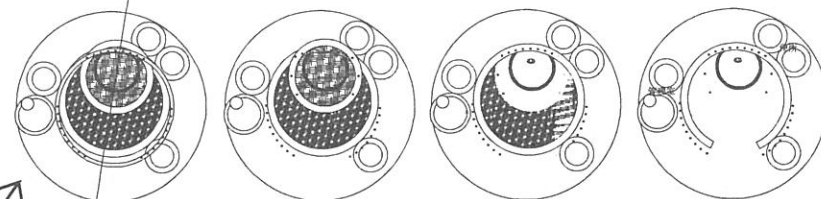
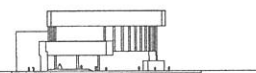
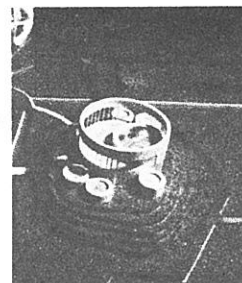
公園

音の出るしくみがあり、子ども達が遊ぶ様子を
地域の人が感じる事が出来る



胎臓界

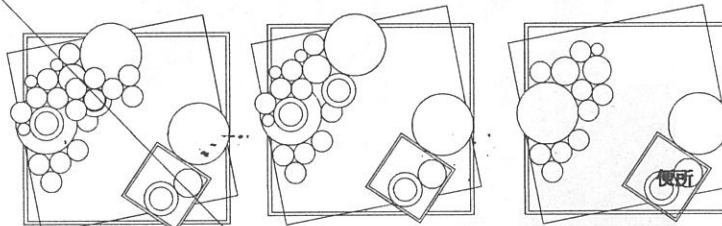
ここには弁財天が祭られる
金剛界と空間構成が同じ



物々交換所

市民農園で作ったものを交換

出来る



花畑

参拝者が水をやり市民農園の
利用者が花を植える